

駆除剤、殺生物剤、局所消毒剤



左からチメロサルを含むワクチン、水銀軟膏、マーキュロクロム液、赤チンキ（製品）

駆除剤、殺生物剤とは害虫や細菌など害を及ぼす生物から人体や動物、材料などを保護するために使われる物で水銀を含む製品にチメロサル、水銀軟膏などがある。また局所消毒剤とはウイルスなどを死滅させ感染力を失わせる薬物で水銀を含む製品にマーキュロクロム液などがある。水俣条約では駆除剤、殺生物剤、局所消毒剤において水銀を使用しないことが求められている。

チメロサル

インフルエンザワクチンをはじめ多くの予防接種ワクチンには、防腐剤としてチメロサルが入っている。チメロサルはエチル水銀に由来し殺菌作用のある水銀化合物である。ワクチン 1ml 中に 0.01mg のチメロサルが添加されている。またチメロサル中の水銀量は約 50%である。WHO（世界保健機関）では必要性及び安全性の観点からチメロサル含有ワクチン使用について肯定的である。水俣条約でも保存剤としてのチメロサルを含むワクチンは適用範囲外である。

水銀軟膏

水銀軟膏は含有水銀の重量が総重量の 30%を占めており、毛虱^{けじらみ}を駆除する殺寄生虫剤として古くから一般に親しまれてきた。その他には水虫^{みずむし}、疥癬^{かいせん}、円形脱毛にも効果があったとされる。現在日本では製造されていないとされるが、海外では水虫の特効薬として使用されている場合もある。

マーキュロクロム液

メルブロミンという有機水銀二ナトリウム塩化合物の 2%水溶液のことでその色から通称「赤チン」と呼ばれている。1918年に医師によって発見、開発され全世界の家庭用常備薬の一つとして長く使われてきた。日本では 1973年頃に製造工程で水銀が発生するという理由から製造が中止されたが、常備薬として求める声もあり、海外で製造した原料を輸入することで現在も販売されている。有機水銀化合物であるが皮膚浸透性が低く、希釈液であるため毒性は低いとされる。水銀含有量は 0.42~0.53w/v%である。